

いつまで続く新型コロナウイルス感染症 そしてロシアのウクライナ侵攻

新型コロナウイルス感染症に関して、日本国内最初の報告例が発表されたのは、約2年6か月前の令和2年（2020年）1月15日でした。その後感染症は世界中に蔓延し、パンデミックと呼ばれ、人々の生活は一変しました。マスクの着用、手指の消毒は日常化し、外での食事や、会議の開催、旅行なども大きく制限され、現在もまだストレスの多い生活を強いられています。6月26日現在の国内の感染者数は総数で926万6769人、福島県内の総感染者数は6万6399人（6月25日現在）で、6月26日の福島県内の新規感染者数は206人と発表されました。感染者は減少傾向にありますが、まだ予断をゆるさない状況が続いています。7月からは4回目のワクチン接種が本格的に始まります。岩谷医院は毎週水曜日の午前中に18人分の枠を設けてありますので、該当する方は申し込んでください。

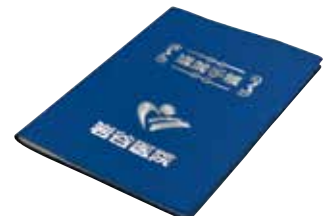
ロシアによるウクライナ侵攻（侵略）は、2月24日朝のプーチン大統領による軍事作戦開始の発表で始まりました。その後毎日テレビに映し出されるウクライナ各地の惨状は目を覆うばかりで、このようなことが起こりうる世界の現状を改めて認識しながらも、何もできない無力さを感じます。すでに4か月を過ぎましたが、解決の兆しもありません。戦争という全く説明のつかない、無駄な行為を続けるロシアという国はいつたいどうなっているのでしょうか？

こんななか、岩谷医院は開業21年目に入りました。開業以来発行してきた『ゆきうさぎ』は60号を最終号として、一区切りつける予定ですが、59号発行からだいぶ時間が経ってしまいました。ご容赦ください。この間、たくさんの方から『ゆきうさぎ』への温かい思いをいただきました。それらをご紹介しながら紙面を作りたいと思います。

院長より一言

岩谷医院の通院手帳はあなたの第2のカルテ

「院長より一言」で通院手帳の話をするのはこれが7回目です。通院手帳には通院病名が記載され、特記事項欄には、病気や手術の既往なども記入してありますので、お薬手帳と一緒にしておくと、万が一、交通事故や緊急の病気になった時でも、救急隊員や救急医療機関にてこの手帳を見てもらえば、必ず役に立つはずです。医療情報がないために適正な処置が遅れることもあります。禍は前触れなく突然に来ることがあります。自分の命は自分で守る。通院手帳は常に所持するか、家の人があるところに保管しておいてください。お願いします。



不思議な病院

福島市瀬上町 新田俊子さん

「今日は何の花がさいているかしら。」

月に二度の診察日には、エントランスに飾つてある小さな盆栽に出会うのが楽しみ。医院のご近所の方が、毎月ご好意で届けて下さるのだという。どの花もみずみずしく可憐で、ハツとするほど美しい。ウメバチソウ・山アジサイ・イワシャジン……ずい分、花の名前を覚えた。

岩谷医院は不思議な病院だ。病院の待合室はたいい無機質で、ユーウツな気分にはさせられるものだが、この病院はちがう。明るく豊かな感じがする。一方の壁面には大きな画が飾られている。ある時は悠然たる中国の山水画。別な時は異国の街の上空に金色の光に包まれて浮かぶ巨大気球の画。待合室の中に季節が流れている。年の終りのクリスマスには大きな樅の木が飾られ、外国の珍しいオーナメントが吊るされる。

室内のラックには、月刊、季刊の趣味の本が並ぶ。ある時、月刊「サライ」の俳句特集号を手にしたことから、俄然俳句に興味を湧いた。街のカルチャー教室に通い、やがて「NHK俳句」のテキストに投句。へ茅花摘む狐のしつぽに太るまでが、夏井いつき選でとられた。幸運に気を良くして、伊藤園「おいお茶」にも投句。へ金色の木苺を手を朝の道がビギナーズラックでとられた。俳句は私の新しい楽しみになった。



岩谷先生には健康全般を管理して頂いている。ブレザー型の白衣姿の先生はいつでもダンディ。病気に関するどんな質問にも不安にも丁寧に対応して下さいませ。

ある日、ちよつとした症状が気になり、ネットで調べたところ、恐ろしい病名が出てきた。次の診察日、先生に訴えたところ、先生は「ずいぶん難しい病名を知っているんですね。私たち医者は、まずありふれた病名から考えるんですよ。」と、お茶目な表情でおっしゃった。

岩谷医院は、スタッフの方々も皆、優しくて明るい。岩谷医院が、年四回自ら編集発行される「ゆきうさぎ」には、美しいカラー写真とともに、タイムリーな健康アドバイス、患者の方々の思い思いの投稿が載っている。

世の中が効率主義に傾く中、岩谷医院は患者との心の交流を何よりも大切にする病院である。

心の架橋

福島市南沢又 三浦洋子さん

我が家のベランダから、四季折々、その姿を変えて見せてくれる吾妻小富士が見えます。

春は浅緑、初夏は深緑、秋には錦、冬は真白に。特に春は、真白な姿が少しづつ緑色に変え、五月頃になると雪兎の姿を現わします。それが夏に向つてだんだんやせ細り、耳やしつぽや足が消えて雪のかたまりになり、そしてそれも消えて、茶色の地肌になります。

今の地に移つて五十数年、毎年その様子を楽しんで参りました。

岩谷先生の所で診察をして頂いて、十数年になりますが、岩谷医院会報「ゆきうさぎ」に出会いました時は、とても親しみを感じ、うれしく思いました。

先生の巻頭言は、政治、経済、芸術、スポーツ、現代の世相など多岐に渡っており、毎号楽しみでしたし、勉強になりました。

六十号で最終になされるとのこと、毎回毎回あれだけの文章を書き続けていらした熱意に感動し心から感謝を申し上げます。

私の夫も、二・三度書かせて頂きましたが、先生の高校時代の教師であったというご縁でございました。

わが家では、夫は「岩谷くん」私は「岩谷先生」とお呼びしています。

「ゆきうさぎ」が終刊いたしても、私が診察して頂くのは続いてまいりますので、夫は「岩谷くん」私は「岩谷先生」とお呼びすることも、ずっと続いていくことでしよう。

「ゆきうさぎ」は医師と患者をつなぐ「心の架橋」でした。沢山癒して頂きました。

ありがとうございます。

三浦賢一先生より

梅雨に入りコロナと心もふさがちなこの頃です。妻がいつも大変お世話さまになり感謝申し上げます。「ゆきうさぎ」ありがとうございます。まもなく休刊とのこと、楽しみに拝読していたのに心残りです。どうぞ地域の皆さんのために奥様ともども健康に留意されお勤めください。

「ゆきうさぎ」のお礼

福島県保険医協会 事務局 福田進之介さん

日頃より大変お世話になっております。

この度は、貴院会報「ゆきうさぎ 第58号」をお送り頂きましてあ

りがとうございます。拝見させて頂きました。

来年発行の【60号】が最終号とのこと、驚きました。患者さんの川柳や寄稿を拝見することが、ちょっとした楽しみでしたので少し残念な気持ちです。

一方で、これまでの継続的な刊行、大変お疲れ様でございました。患者さんご家族から岩谷医院様への信頼感あつてこそ、川柳箱が多いに活用されたものと思います。

追伸・今回の寄稿「自分の痛みを輝きに変える」は、母娘のとても素敵なやり取りで涙がホロリとなりそうでした。

「ゆきうさぎ」お疲れ様でした

福島市南沢又 青木厚夫さん

岩谷医院の院長先生はじめスタッフの皆様、長年にわたる「ゆきうさぎ」の発行本当にお疲れさまでした。第60号まで継続されたご努力に深く敬意を表します。

私も一回投稿させて頂いたとき、グアム旅行とマカオ旅行について掲載していただきました。その後は新型コロナウイルス感染症が流行して、旅行もできなくなってしまうりましたが、また旅行ができるようになったら投稿させていたかどうかと思っていたので少し残念な気持ちもあります。

とはいえ、岩谷医院の診療は続くとのこと、大いに安心いたしました。診察の度に、先生やスタッフの方が私のたわいのない話をよく聞いてくださるので、本当にありがたいと思っております。大変なお仕事ですがこれからもよろしくお願ひします。



「岩谷医院の皆様へ」

福島市小倉寺 青木義孝さん

長年の患者の見守り感謝多謝。両先生、おかげさまにて米寿です。「ゆきうさぎ」小富士とともにいつまでも

大原医療センター 吉田典行さん

此の度はゆきうさぎ59号を送付していただきありがとうございます。パラリンピック2020東京大会の陸上400m T13で七位に入賞された佐々木真菜選手との交流があることを「ゆきうさぎ」で知り、先生の人脈の広さに感嘆の声をあげております。一方で「ゆきうさぎ」が60号で最終号になるとのこと先生を始め患者さんたちもさぞいろいろな感情を抱いていらつしやるのではと推察しております。今回も従来通り外来に設置させていただきたいと思っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

ハガキにて甚だ失礼とは存じますが取り急ぎ御礼申し上げます。

福島市太田町 佐久間洋憲さん

毎号楽しみに読んでました。長い間ありがとうございます。

うさぎさん

話題が豊富で大変良かったと思います。

長い間お疲れさまでした。ありがとうございます。

「院長先生はホメ上手!？」

リバウンド王さん

高血圧症で本院に通院し始めたのが、平成20年4月のこと、MAX 86kgあった体重も、院長先生の(ご)指導の下、何とか(何度か?)リバウンドを繰り返しながら、現在は、67kgとなり、健康を維持しております。運動嫌いの私を、院長先生は「今月も頑張りましたね。この調子でー」と、言葉のマジックでブタをおだてるのです。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

|| pearl story ||

「自分の痛みを輝きに変える!」

福島市北中央 木下敏久さん

すばらしい作品。そして良薬、それを選んだ院長もすごい。

アグリホームの施設長が「ゆきうさぎ」を5部受け取ってください、主任に「みんなで読ように」云って下さったのは自分の事のようにうれしく、感動あらたでした。

「感謝」

福島市松川町 大槻一夫さん

若い時には太く短くと考えた。その背景には丈夫な体があった。想いに包含されたその中味は玉石混交で、障害を乗り越える力もあった。老いての毎日は、細く長く願う。痛みのない、苦しみのない平穏無事を願い、健康への気配りも、若い時には考えてもみなかった日々。

岩谷先生のご助言で15年に亘り健康に支えられてきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

「院長ご夫妻へ」

福島市松川町 蒲倉琴子さん

「ゆきうさぎ」に長い間幼稚な俳句を掲載させていただき、誠にありがとうございます。院長ご夫妻の温かい評に背を押されまして、続けることが出来ました。心より感謝申し上げます。ご多忙の内、皆様方の作品にもやさしく目を向けられました事、文面に見られました。有難うございました。岩谷医院の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

「岩谷医院の皆様へ」

気むずかしい川柳じいさんの孫より

家族で楽しみにしておりました「ゆきうさぎ」が最終号とのことで筆をとらせて頂きました。今まで祖父の生きがいの1つであります川柳を掲載して頂き本当にありがとうございます。祖父母が長生きできておりますのは岩谷医院のみなさまのおかげです。この場をおかりして感謝申し上げます。

*多くの皆様から「ゆきうさぎ」に暖かいお言葉をたくさん頂き有難うございます。20年前、開院時の「ゆきうさぎ第1号」はA4 1枚での医院及びスタッフの紹介でした。以来、継続が大事と頑張つて発行してきましたが、当初からの目標の「60号」になりました。この間、多くの投稿者から元気をいただき、かけがえのない経験もたくさんさせてもらいました。これもひとえに、患者さんはじめスタッフおよび多くの皆様のお陰と感謝しております。(院長)

ガーデンK&F花だより

桜



藤



バラ



医院からのお知らせ



【令和4年の市民検診について】

市政だよりでもご存知のとおり、今年も6月より各種がん検診と特定検診(メタボ検診)が始まりました。

【令和4年6月1日(水)～10月31日(月)】

特定健診・後期高齢者健診の内容については前年度とほぼ変わりません。

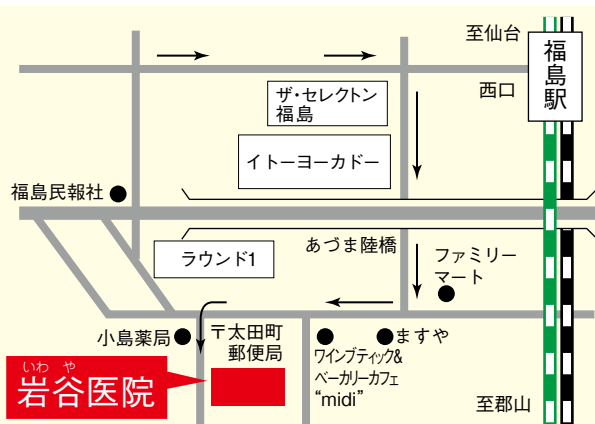
ですが、今年もコロナウイルス感染状況により集団検診は行われません。個別健診のみとなりますのでご希望の方は混雑を避ける為、お早めに予約されることをお勧めします。

当院に定期的に通院し薬を服用されている患者さんに対しては、6ヵ月に1度は少なくとも一通りの血液検査を行い検査結果の説明・指導を行っておりますので、特定健診用の血液検査は必要ないかと考えておりますが、**各種がん検診**については、ぜひ受けていただきたいので、**該当の方は届いている受診券を持参し受付にお申し出下さい。**

当院では大腸がん・肺がん・前立腺がん・肝炎ウイルス検診・骨粗鬆症検診が実施可能です。(骨粗鬆症検診は手のレントゲンを撮るだけですので対象の女性の方は是非受けていただければと思います。)

なお、検診については混雑をさける為にも完全予約制となっております。**受診券・保険証の確認と前もって問診票の記入も必要**となりますので、お早めに受付にお申し出下さい。なにかご不明な点がありましたら、お気軽に受付にご相談下さい。

【※10月検診末月になると検診予約が出来ない場合がありますのでお早めに相談・ご予約をお取りいただくようお願い致します。】



【福島駅西口より 徒歩7分】

〒960-8068 福島市太田町17-27ラ・シェール追分1F
 でんわ 024-528-7770 / FAX 024-528-7780

★診療時間(予約の方が優先されます)

平日(木曜日を除く)は 午前9時～12時 午後2時～5時30分
 土曜日は 午前9時～午後2時(昼休みなしで診療いたします)
 休診日は 日曜日・祝祭日・木曜日

★診療項目

内科疾患・循環器疾患・動脈疾患・先天性心疾患・人工弁管理・ペースメーカー管理・人工血管管理・基本検診・健康スポーツメディカルチェック など

川柳箱より(短歌、俳句、川柳、詩など)

蒲倉琴子さん(福島市松川町)

俳句

秋灯下人生変へし本一つ
 神の旅おらが鎮守も殿に
 安達多良山に向かいて冬芽尖りをり
 言ひ分はあれど幸せ仏の座

*「仏の座」は正月の季語

*蒲倉さんの「俳句」は多くの方の楽しみでした。私もたくさん勉強させていただきました。これからもお元気で素敵な句を詠んでください。(院長)

酒井 勇さん(福島市天神町)

川柳

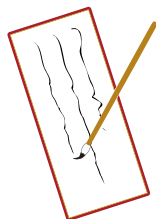
今日も又テレビに現わる好きな女
 それはそれあれはあれよとうなずきぬ
 そよぐ風すぎた若さを想わせり
 晴れる風吹いて起きるは我の唇
 この場所はおいらを泣かした青春路
 五十年いまだに持つてる惚れ菜

*酒井さん、80を過ぎても元気で。やはり感性は年をとりませんね。(院長)

潮 みつるさん(福島市小倉寺)

川柳

黙食やしかめっ面に山笑う
 普段着で朗々と古い去年今年
 偉丈夫が今や一転クスリ漬け
 *潮さん、川柳の二ひねりが巧みですね。(院長)



あ と が き

4回目のワクチンが始まった新型コロナウイルス感染症ですが、7月に入って再び感染者は増え始め、第7波の大きな波になっています。ウクライナ情勢も収束の兆しはありません。『ゆきうさぎ60号』はもっと明るい状況でお届けしたかったのですがやむをえません。旬報の「ゆきうさぎ」は最終号になりましたが、これからは不規則の院内報としての継続を考えております。

最後にウクライナの平和と新型コロナワクチンの終息を心より祈念いたしましてあとがきとさせていただきます。(院長)